福祉に関するアンケート調査　設問比較表【令和5年度実施分→令和7年度実施分】（たたき台）

分類	令和5年度実施分		令和7年度実施分					R05年度実施時に新規・変更した理由・内容
		設問内容		設問内容	❶ 身体・知的・難病	❷ 精神	❸ 障害児	
身体障害者		3，000人 （18歳～64歳：2,100人、65歳以上：900人）	継続	3，000人 （18歳～64歳：2,100人、65歳以上：900人）				―
難病患者		80人	継続	80人				―
知的障害者		1，350人 （年齢内訳なし）	継続	1，350人 （年齢内訳なし）				―
精神障害者		1，900人 （年齢内訳なし）	継続	1，900人 （年齢内訳なし）				―
障害児		1，170人 （手帳あり：890人、手帳なし：280人）	継続	1，170人 （手帳あり：890人、手帳なし：280人）				―
①回答者について 【基本項目】		回答者（記入者）（本人/介助者）	継続【★】	回答者（記入者）（本人/介助者）	―	―	―	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、本人もしくは介助者回答によって回答結果に傾向があるのか把握するため設問を追加
		所持手帳	継続	所持手帳	問1	問1	問1	―
		補問：手帳の等級・判定	継続	補問：手帳の等級・判定				―
		補問：障害の種類・原因	継続	補問：障害の種類・原因				―
		難病・発達障害・高次脳機能障害の対象の有無 （難病の方／発達障害の方） 補問：難病の疾患名、発達障害の種類	継続	難病・発達障害・高次脳機能障害の対象の有無 （難病の方／発達障害の方） 補問：難病の疾患名、発達障害の種類	問2	問2	問2	―
		同居人数・同居家族	継続	同居人数・同居家族	問3	問3	問3	―
		性別	継続【★】	性別	問4	問4	問4	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、回答方法については、選択制とし「男性」・「女性」・「その他（　　）」・「回答しない」とし、設問を再追加
		年齢（自記入）	継続	年齢（自記入）	問5	問5	問5	―
		要介護認定の対象の有無と要介護認定の区分（※40歳以上の方のみ）	継続	要介護認定の対象の有無と要介護認定の区分（※40歳以上の方のみ）	問6	問6	―	―
		（非該当、要支援1～2、要介護1～5の方） 補問：障害福祉サービスから介護保険サービス移行後の問題点（自記入）	継続	（非該当、要支援1～2、要介護1～5の方） 補問：障害福祉サービスから介護保険サービス移行後の問題点（自記入）				―

分類	令和5年度実施分		令和7年度実施分					R05年度実施時に新規・変更した理由・内容
	設問内容			設問内容	❶ 身体・知的・難病	❷ 精神	❸ 障害児	
②保健・医療について 【基本施策1】		医療機関の受診の有無	継続	医療機関の受診の有無	問7	問7	問6	—
		医療機関の受診に関する問題点	継続【★】	医療機関の受診に関する問題点	問8	問8	問7	・本市の専門分科会の委員意見も踏まえ、現行の選択肢1「通院の交通手段が確保・利用しにくい」を「通院の交通手段が確保・利用しにくい（交通費負担が大きいなども含む）」に変更
		現在受けている支援の有無（医療的な支援含む）（※精神障害者のみ）	継続【★】	現在受けている支援の有無（医療的な支援含む）（※精神障害者のみ）	—	問9	—	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、本人向け調査であることから家族向け支援に該当する現行の選択肢6「精神障害者家族教室」と選択肢7「認知症家族教室」についてを、削除 ・また、選択肢「保健福祉相談」を「南北保健福祉センター（精神保健相談）」に変更
		（障害を理由とした）入院経験の有無	継続【★】	（障害を理由とした）入院経験の有無	—	問10	—	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、入院時における困りごと等を把握するため設問を追加
		補問：入院時の困りごとなど（自記入）	継続【★】	補問：入院時の困りごとなど（自記入）	—		—	
③福祉サービス、相談支援について 【基本施策2】		障害福祉サービスの利用の有無 利用しているサービス	継続	障害福祉サービスの利用の有無 利用しているサービス	問9	問11	問8	—
		サービスを利用できない状況の有無	継続	サービスを利用できない状況の有無	問10	問12	問9	—
		補問：サービスを利用できなかった理由（自記入）	継続	補問：サービスを利用できなかった理由（自記入）				—
		サービスを利用しやすくするために求める支援	継続【★】	サービスを利用しやすくするために求める支援	問11	問13	問10	・本市の専門分科会の委員意見も踏まえ、現行の選択肢7「身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい」を「身近な場所でサービスを受けられるようにしてほしい（送迎サービスの充実などを含む）」に変更
		福祉サービスの利用や日常生活の支援などの相談相手（選択肢は家族や親しい友人以外）	継続【★】	福祉サービスの利用や日常生活の支援などの相談相手（選択肢は家族や親しい友人以外）	問12	問14	問11	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、家族や親しい友人以外に相談相手がいない場合に回答がもらえない可能性があるため、設問文から家族や親しい友人以外を削除
④療育・教育について 【基本施策3】 （※障害児のみ）		通学・通所先	継続【★】	通学・通所先	—	—	問12	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、法律上明記されていない選択肢11「高等特別支援学校」については、回答の際に選択肢10「特別支援（養護）学校（高等部）」と区別がつかない可能性があるので削除
		事業所からの療育内容などに関する説明（情報共有）の有無	継続	事業所からの療育内容などに関する説明（情報共有）の有無	—	—	問13	—
	○	関係機関（事業所や学校）との連携の状況	継続	関係機関（事業所や学校）との連携の状況	—	—	問14	—
		保育・教育に求めること	継続【★】	保育・教育に求めること	—	—	問15	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、選択肢2「障害のない児童・生徒とのふれあいをしてほしい（ふやしてほしい）」については、『ふれあい』という言い方は誤解を招く可能性があるため、「障害のない児童・生徒との交流機会をふやしてほしい」に変更

分類	令和5年度実施分		令和7年度実施分					R05年度実施時に新規・変更した理由・内容
	設問内容		設問内容		❶ 身体・知的・難病	❷ 精神	❸ 障害児	
⑤雇用・就労について 【基本施策4】		就労の有無	継続【★】	就労の有無	問13	問15	—	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、選択肢3を「作業所など（就労継続支援A型・就労継続支援B型・地域活動支援センター・生活介護・その他作業所など）で働いている」に変更 ・併せて選択肢4を「働いていない」に変更
		補問：就労期間（定着状況）	継続	補問：就労期間（定着状況）				—
		補問：就労などによる平均月収（自記入）	継続	補問：就労などによる平均月収（自記入）				—
		補問：仕事をするうえでの問題点	継続	補問：仕事をするうえでの問題点				—
		補問：（就労無しの場合）日中の過ごし方	継続【★】	補問：（就労無しの場合）日中の過ごし方				・「就労の有無」の選択肢の変更に伴い、選択肢1を「日中に通所施設・事業所に通っている」に変更
		働きやすくなる条件や環境整備	継続【★】	働きやすくなる条件や環境整備	問14	問16	—	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、選択肢に「やりがいのある仕事ができる」と「業務内容に見合った賃金（給与）が得られる」を追加
		将来への不安（※障害児のみ）	継続	将来への不安（※障害児のみ）	—	—	問16	—
⑥生活環境、移動・交通について 【基本施策5】		居住形態	継続	居住形態	問15	問17	問17	—
		希望する居住形態・世帯構成	継続	希望する居住形態・世帯構成	問16	問18	問18	—
		在宅生活を送るための必要な支援	継続	在宅生活を送るための必要な支援	問17	問19	問19	—
		外出回数	継続	外出回数	問18	問20	問20	—
		単独外出	継続	単独外出	問19	問21	問21	—
		補問：外出時の同伴者・支援者	継続	補問：外出時の同伴者・支援者				—
		外出時の問題点	継続	外出時の問題点	問20	問22	問22	—
⑧生涯学習活動（スポーツ・文化、社会参加活動）について 【基本施策6】		生涯学習の実施状況（実施の有無）	継続	生涯学習の実施状況（実施の有無）	問21	問23	問23	—
		補問：（有の場合）生涯学習の実施の内容	継続	補問：（有の場合）生涯学習の実施の内容				—
		補問：（有の場合）生涯学習の実施の場所	継続	補問：（有の場合）生涯学習の実施の場所				—
		生涯学習に必要な支援など	継続	生涯学習に必要な支援など	問22	問24	問24	—

分類	令和5年度実施分		令和7年度実施分					R05年度実施時に新規・変更した理由・内容
		設問内容		設問内容	❶ 身体・知的・難病	❷ 精神	❸ 障害児	
⑨安全・安心について 【基本施策7】		近年の災害時に困ったことの有無	継続	近年の災害時に困ったことの有無	問23	問25	問25	—
		補問：困ったことの内容（自記入）	継続	補問：困ったことの内容（自記入）				
		災害時に避難する場所の認知度	継続	災害時に避難する場所の認知度	問24	問26	問26	—
		災害に対する備えの状況と内容	継続	災害に対する備えの状況と内容	問25	問27	問27	—
		消費者トラブル経験の有無	継続	消費者トラブル経験の有無	問26	問28	問28	—
		補問：消費者トラブルの内容（自記入）	継続	補問：消費者トラブルの内容（自記入）				—
⑩権利擁護、啓発・差別の解消について 【基本施策8】	○	虐待を受けた時や発見した時の通報先の認知度（尼崎市障害者虐待通報・緊急連絡窓口）	継続	虐待を受けた時や発見した時の通報先の認知度（尼崎市障害者虐待通報・緊急連絡窓口）	問27	問29	問29	—
	○	成年後見制度の認知度	継続	成年後見制度の認知度	問28	問30	問30	
		差別・偏見を感じるかの有無	継続	差別・偏見を感じるかの有無	問29	問31	問31	
		補問：差別を感じる場面や場所	継続	補問：差別を感じる場面や場所				
	○	障害者差別解消法の認知度	継続	障害者差別解消法の認知度	問30	問32	問32	
		障害・難病への市民の理解の浸透度	継続	障害・難病への市民の理解の浸透度	問31	問33	問33	
⑪情報・コミュニケーション、行政等における配慮について 【基本施策9】		使用している情報通信手段	継続	使用している情報通信手段	問32	問34	問34	—
		市役所からの情報入手方法	継続	市役所からの情報入手方法	問33	問35	問35	
	○	市役所からの情報の取得状況の満足度（評価）	継続	市役所からの情報の取得状況の満足度（評価）	問34	問36	問36	
		補問：不十分な理由（自記入）	継続	補問：不十分な理由（自記入）				
		コミュニケーション手段	継続	コミュニケーション手段	問35	問37	問37	
		コミュニケーションに支障を感じるかの有無	継続	コミュニケーションに支障を感じるかの有無	問36	問38	問38	
		補問：支障を感じた内容と必要な支援（自記入）	継続	補問：支障を感じた内容と必要な支援（自記入）				
		尼崎市手話言語条例の認知度	継続	尼崎市手話言語条例の認知度	問37	問39	問39	
		障害・難病への行政職員の理解の浸透度	継続	障害・難病への行政職員の理解の浸透度	問38	問40	問40	

分類	令和5年度実施分		令和7年度実施分					R05年度実施時に新規・変更した理由・内容
	設問内容			設問内容	❶ 身体・知的・難病	❷ 精神	❸ 障害児	
⑫その他全般について		新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と現在の生活の変化(自記入)	継続【★】	新型コロナウイルス感染症の流行時から現在の生活における困りごとや変化(影響)(自記入)	問39	問41	問41	・新型コロナウイルス感染症の流行下において、障害のある人を取り巻く生活の変化を把握するため設問を追加 ※より強く感じている変化を把握するため、自記入式とする。
		本市で暮らしていく上で、特に必要と考える支援など(選択は3つまで)	継続	本市で暮らしていく上で、特に必要と考える支援など(選択は3つまで)	問40	問42	問42	—
		ご意見・ご要望など(自由回答)	継続	ご意見・ご要望など(自由回答)	問41	問43	問43	—
⑬介助者について		主な介助者と本人との関係	継続	主な介助者と本人との関係	問42	問44	問44	—
		介助者の年齢(自記入)	継続	介助者の年齢(自記入)	問43	問45	問45	—
		将来に対する不安	継続【★】	将来に対する不安	問44	問46	問46	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、介助者の本人に対する不安要素として「差別・偏見」があるのか把握するため、選択肢に「障害に対する偏見や差別を受けないか」を追加
		介助者の悩みなどの相談相手や場所	継続	介助者の悩みなどの相談相手や場所	問45	問47	問47	—
		介助者が希望する(本人の)将来の住まい	継続	介助者が希望する(本人の)将来の住まい	問46	問48	問48	—
		補問:希望する住まいで暮らすために必要な支援	継続	補問:希望する住まいで暮らすために必要な支援	問47	問49	問49	
		ご意見・ご要望など(自由回答)	継続【★】	ご意見・ご要望など(自由回答)	問48	問50	問50	・本市の専門分科会等の委員意見も踏まえ、介助者の意見等を把握するため、設問を追加

【補足説明】
〇の設問については、尼崎市障害者計画(第4期)の施策目標・活動指標として設定しているもの
【★】の設問については、前回アンケート調査実施に新規追加・変更を行った設問。